

井技師保護の下に退場したるため遂に内燃機工場人影を見ざるに到れり。一方門前に於ては截首されたる一宅、澁谷の兩委員は路傍演説を開始し、會社の不誠意を鳴して之れを痛撃したるため兵庫署の檢束するところとなれり。内燃機工全部は七時四十分頃より行進を開始し示威運動に移り、和田宮通より笠松通り社宅方面を経て途次労働歌を高唱しつゝ、電機工場其他未だ争議に加はらざる工場に示威し川崎へへと號しつゝ、途中幾度か警官隊に阻まれ、大佛前に集合せんとして又果さず、遂に御旅所筋を北へ會下山遊園地に向ふ。急報に接したる港川署にては應援の爲兵庫に向て出動中の三十餘名の一小隊を直ちに會山下下に背進せしめ、更に本署より繰出して警戒するところあり。會下山下遊園地に入れる職工團は一應晝食の上、改めて二列縦隊に整理し労働歌を高唱しつゝ、川崎造船所を訪問し、相生町を東して各新聞社を歴訪し港川勸業館前に引揚げ萬歳を三唱して午後一時解散したり。

其一方造船工作部は他迄も目的の貫徹を期し同日朝來改めて交渉委員を選ぶべく委員集合協議最中、午前八時半頃第三造船機工場に集合せる三千餘名の職工は不意に席旗を押し立て大喊聲を擧げ工場内全部に示威運動を始め作業中の造船主機工場内を突破通過し補機工場に向ひしも此處にて食ひ止められ大にイキリ立ち盛に瓦礫鐵塊等を投じ守警本部前に來たれる時守警が投石したる職工二名を守警本部へ拉致したる爲め忽ち激昂し全部本部へ殺到し右の二名を取り返さんと轟めき瓦礫を飛ばして硝子五十數枚を破壊し暴動的色彩を示したるため前記協議中の委員は大いに驚き駆け付け極力鎮撫する

一方、山田、山本の兩委員は守警に談判中押し寄する職工側と守警隊衝突の中間に挟まれ鐵拳の雨を浴び足部其他に數ヶ所の傷を負ひ其場に昏倒し大修羅場をも現出し兼ねまじき形勢に見えたるが、兵庫、湊川、三宮各警察より、各五十名の應援警官出張辛くも鎮撫し、負傷兩委員を三菱病院に收容せんとしたるに職工側は心許無しとて更に兩委員を俾に乗せ永澤町津田病院に送れり。事態斯くの如く雲行刻一刻險惡の度を加へつゝあるの間、工作部は中村外三名の委員を選び午前十時半工作部長以下に會見、前日却下されたる要求書を提出し「前日御示しの通り會社の意のある所を全職工に通じたが、一同承知しませんから是非共要求書は受付けて貰ひ度い」と述べ一時間半に亘り押し問答を續けたるが、例の如く遂に會社の受付ける所とならず正午、四委員空しく引取り會社側も亦工場内の空氣の追々惡化するを見て工場長等協議の上、他の平穩工場への感染を慮り斷然十一時には全工場の機械運轉休止を命じ、朝來平穩に作業せる造機、主機、補機、製罐等各工場全職工を全部帰宅せしめたるも工作部の二千五百名には帰宅を差止めたるため憤慨し電氣工作部は工場への通用門を押し破り尙作業中なりし同工場内を練り廻り、更に閉鎖中の内燃機工場の裏門を破壊して突入し無人の境に示威せる後午後一時半に至り引揚げ同三時、「労働者の権利を認めよ」「儀装課示威行列」等の旗を押立て二列縦隊を作り事務所前より西門を突破退出、數丁に亘る蜿蜒長蛇の陣を作り湊川遊園地に出で無事解散したり。負傷兩委員は治療二週日兵庫署に檢束せられし澁谷、一宅の兩名は午後三時に到り説諭放還されたり。